

# 山室如齋

号

山室箕陽

やまむろ・じょさい

やまむろ・きょう

福山藩儒、藩校弘道館総纏

## 経歴

生:元文4年(1739年)11月23日、備後国深津郡市村(現福山市蔵王町)生まれ

没:文化7年(1810年)8月9日、享年72歳、佐波村雁山へ葬る

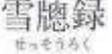
—	—	齋木坦窩(福山藩儒)に学ぶ
寛保3年(1743年)	5歳	千字文を誦す
宝暦10年(1760年)	21歳	京都の林東溟と亀井南溟に入門
宝暦11年(1761年)4月17日	22歳	山室武左衛門時敏の養子となり娘の於龍と結婚する
宝暦12年(1762年)2月17日	23歳	妻於龍が死亡
宝暦12年(1762年)10月29日	23歳	養父の武左衛門時敏が亡くなり、跡目の二十人扶持御元締支配を継ぐ
宝暦12年(1762年)	23歳	後妻(小林氏の娘)と結婚
明和元年(1764年)	25歳	息子兵馬(諱:忠)が生れる
明和2年(1765年)12月25日	26歳	福山藩御供番(供奉郎)となる
安永6年(1777年)5月7日	38歳	福山藩儒者見習
天明2年(1782年)1月23日	43歳	福山藩儒者見習を辞職、御元締支配となる
天明3年(1783年)6月15日	44歳	隠居
天明6年(1786年)4月23日	47歳	十人扶持学術世話取、藩校弘道館総纏め(初代館長)
天明年間	—	この頃『雪隠録』15巻を完成
寛政2年(1790年)12月	51歳	藩命により向道亭の哀悼文を作成
寛政9年(1797年)8月19日	58歳	如齋撰文の福山城鐘櫓の鐘が新鑄なる
寛政10年(1798年)	59歳	孫汲古が生れる

## 生い立ちと学業、業績

はじめ土屋専助という。備後国深津郡市村(現福山市蔵王町)医王寺の甥。

密書役山室時敏の養嗣子となり、名は恭、字は子安・如齋、通称は武左衛門、箕陽と号した。

齋木担窩・林東溟・亀井南漠に儒学を学び、学なって福山藩儒となる。弘道館総纏となり、文学以外に天文・地理・草木・動物などにも通じた。

著書に『』(15巻)がある。

福山城に向って作詩したいと、墓は備後国沼隈郡佐波村(現広島県福山市佐波町)の雁山山上にあり、衣川閑齋が墓誌を撰している。

家は長子山室治時(山室忠)が継いだ。 (出典1)～(出典5)

出典1:『近世後期の福山藩の学問と文芸』、94頁、福山市立福山城博物館編刊、1996年4月6日

出典2:『福山藩の文人誌』、50頁、濱本鶴賓著、葦陽文化研究会編刊、1988年7月27日

出典3:『福山藩の教育と沿革史』、165頁、清水久人著、鷹の羽会本部阿部正弘公顕彰会編刊、1999年8月20日

出典4:『文化財ふくやま(第27号)』、47・54頁、福山市文化財協会編刊、平成4年6月25日

出典5:『福山の今昔』、156頁、濱本鶴賓著、立石岩三郎刊、大正6年4月26日

2005年1月21日更新:没年訂正●2005年4月1日更新:経歴・本文・出典●2006年3月16日更新:本文●2007年9月25日更新:経歴・関連情報・出典●2008年7月15日更新:本文・関連情報削除●2009年7月8日更新:本文●2010年3月19日更新:氏名・本文・出典●